

「ゆりりん調査を活用したケアマネジメントの構築に向けて」

社会福祉法人こうほうえん ケアプランセンターなんぶ幸朋苑

○発表者氏名 介護支援専門員 池口宏明

1. 問題提起

在宅介護で排泄の負担が増えると施設入所を考える家族は少なくない。今回、排泄に負担を抱えショートステイ（以下、SS）を利用している家族の排泄負担軽減に向けて在宅事業所で取り組んだ2事例を通し、居宅介護支援事業所としてケアマネジメントのあり方について報告する。

2. 目的

施設で取り組んでいる排泄ケア（ゆりりん調査）を活用し、在宅事業所との連携を通して在宅で介護している家族の排泄負担軽減が図れないか、介護支援専門員（以下、CM）として根拠ある排泄ケアマネジメントの示唆を得る。

3. 方法

在宅介護で家族が抱えている排泄課題改善に向けて以下、内容に取り組んだ。

- ① ゆりりん調査を実施
- ② 在宅関係事業所で、ゆりりん調査データを分析する
- ③ 在宅事業所での実践及び家族への指導

※ゆりりんとは（右写真参照）

超音波で膀胱内の尿量を測定し数値で表示する器具



4. 成果・課題

【事例1】

89歳 女性 要介護5

主病歴：アルツハイマー型認知症

障害高齢者日常生活自立度：C2

認知症高齢者日常生活自立度：Ⅲa

サービス利用：ディサービス（以下、DS）週5日 SS月10日

本人の状態：ベット中心の生活で身の回り動作全てに介助が必要。

介護状況：長男夫婦と同居 主介護者長男妻は就労と家事を兼ねての介護で、腰痛を抱えている。

排泄状況：尿意便意ない。起床時（6時）・毎食後・就寝前（21時）パッド交換実施。就寝後、起床時までパッド交換はない。

排泄課題：「起床時の尿漏れによる更衣等の後始末が一番の負担となっている」

<取り組み内容>

- ① SSで、ゆりりん調査実施（表1）、その結果をCMから長男妻に報告

結果

長男妻へ調査データを元に「この時間に多く出ているので交換してみてください」と報告するが、「夜間のパッド交換はできない」「どのような方法で排泄介助をしたらいいかわからない」と声があり、起床時（6時）の尿漏れの改善に繋がらず長男妻の負担が増え、サービス利用回

(表2)

平均食事量: 10/10 割		平均水分量: ml	平均離床時間: 9 h	最大膀胱蓄尿量: 277ml
便の性状(フリストルスケール)		5. ヤセ軟便		
睡眠の様子		平均睡眠10h 2~3日1度 20~30分覚醒はなし		
調査結果 気付き・課題	○前傾姿勢をとり、腹圧をかける			
	○夜は21~23の間にはトイレの案内を行う (夜間(21~5)の尿量が多い様子が見られる)			
	○7~8時頃(朝食前)トイレ案内を行う。(トイレ内での排尿が多い為)			
	○軟便の少量ずつ排泄を促している。拭きのしこみは陰部が不潔に保たれる状態にある。陰部洗浄の完了と排泄物の仕上げ拭きを検討必要			
	○夜間 既述の経路結果を参考に上記の様子と結果を元にトイレ案内とトイレの使用法について内容検討後ご家族へ報告予定と取			
	○夜間24~7時に出る排泄物は24~5時トイレ案内に翌日起床時6~7時頃トイレ案内 はなし			
	○夜間2~5時平均800mlを排泄し、おしこみと器も出し			

結果

「朝起きた時の尿漏れが少なくなり、朝ゆとり持って本人に関わることができるようになった」と長女より

成果

在宅で排泄に負担を抱え、介護している家族への解決策として、ゆりりん調査は有効的な手段であることが分かった。適切な排泄方法を見出していくためには調査データの分析が必要となるが、同在宅事業所には連携できるチームがあるため、この仕組みを居宅介護支援ツールとして活用することが在宅生活継続の糸口となることを事例から気付かされた。しかし、データ報告だけでは事例1は改善できなかったもので、事例2の結果から事業所での実践、家族への指導というシステムの構築が必要と考える。

課題

居宅介護支援事業所として排泄ケアのノウハウを身に付けていくことが、家族が排泄に負担を抱え、在宅生活を断念するケース解消の切り口となる。そのためにもCM1人1人が、ゆりりん調査を活用した成功事例を今後も積み重ねていくことが重要と考える。